

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152
メー ル info@takaoka-hongwanji.jp

◇会館永代経修行

去る七月十九日（水）
会館永代経が修業された。例年、教区布教団の布教大会を兼ねて開催されるものである。

ここ二年新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、午前（日中）のみの開催であったが、この春より新型コロナウイルス感染症から第五類感染症へと位置づけが変更されたことにより、パンデミック前と同様に会館永代経は午前・午後の二座が勤修された。

教区布教団の布教大会では、午前は吉井瑠璃子さん（新湊組智徳寺）・山名一徳さん（伏木組龍善寺） 午後は、村上昂文さん（水波組西養寺）・安達秀憲さん（川上組空泉寺）にそれぞれご法話をいただいた。ご参拝は高岡教区講社連盟の方々を中心に百名を超える多くの方々に参加をいただき、盛況に永代経をお勤めすることができた。また、十一月には会館報恩講の修業も予定されているが、こちらも午前・午後、二座の開催を予定している。

◇公聴会開催

去る七月二十一日（金）午後三時より西本願寺高岡会館



札拝堂において「公聴会」が約三十名出席のなか開催された。今回はZOOMを使ったリモート会議形式で行われ、高岡教区のほか、北海道教区、和歌山教区も同時に「公聴会」が開催された。

今回の公聴会では、「新たにめざす持続可能な宗務組織を構築するための具体策」と「次期『御同朋の社会をめざす運動』（実践運動）総合基本計画・重点プロジェクト策定にあたって」そして最後に「賦課基準の見直しについて（第三次答申）」説明・意見聴取動画の視聴のあと、三

教区の参加者から意見聴取が行われた。

高岡教区の参加者からは、「新たにめざす持続可能な宗務組織を構築するための具体策」に関して、人件費の削減は大切かも知れないが職員数を減らすのではなく、役職者そして一般職のすべての給与額の見直し等を行ってはどうかとの意見が出された。また、「賦課基準の見直しについて（第三次答申）」に関しては、期限ありきで議論がすすんでいるのではないか。また、必要な宗派事業を精査してから賦課金の総額が決定されるべきではないか等の意見が出された。



◇布教団実践運動研修会開催

去る八月一日（火）西本願寺高岡会館礼拝堂において、「通夜・葬儀の現場の声から学ぶ遺族の悲しみに寄り添うあり方とは？」をテーマに高岡教区布教団実践運動研修会が開催され、布教団員ならびに高岡教区寺族青年会会員が参加し、葬儀の場での僧侶のあり方や課題について学びを深めた。

昨年に全日本仏教界が葬儀事業者を対象に実施した「葬儀にかかわる僧侶の実態調査」では調査に応じた実に半数にあたる50.5%が「僧侶が失礼な態度である、遺族に寄り添いが無い」と感じた、と回答している。

本研修会は、実際に僧侶の通夜・葬儀の場での言動や法話がどの様に思われているのか、葬儀会社にお勤めの方をお招きし、葬儀の現場からの声や遺族の受け止めをお聞きし、特に留意すべき点や改善すべき点についての課題を浮かび上がらせることをねらいとして企画されたもの。

葬儀会社の職員さんを交えたパネルディスカッションでは、「通夜法話は遺族にとっても非常に重要な意味を持っており、どのような話をするかで遺族の雰囲気すら変えていく力がある。それは僧侶にしかできないことである。通夜の場を借りて『布教』をするのではなく遺族に向けたお話をしてほしい」「大事な家族を失った直後は遺族は非常に敏感になっており、ちょっとした心遣いや寄り添いが、遺族に対する大きな支えや励ましとなる。逆に配慮に欠けた言動は大きく信頼を損ねてしまい、その後の関係が途絶えてしまうことも実際にある」「残念ながら、あまりにも配慮に欠けた言動や横柄な態度を取る僧侶も一定数おられ、葬儀社に遺族から苦情が寄せられることも珍しくない」等の報告がなされた。

その後の全体協議会では出席した布教団員から「僧侶は葬儀の場においては招かれている立場であり、主催者は喪主と遺族にもかかわらず、遺族に対して横柄に振る舞うというのは、かつての江戸時代の寺檀制度に基づいた上下関係や力関係がいまだに僧侶の意識に作用しているの

はないか」という指摘や「圧倒的に説明不足と対話不足であることが根底にある。これは通夜・葬儀の場だけではない問題で、普段からのお付き合いの中で信頼関係を築いていくことができていないことが問題の本質ではないか」という意見があった。

最後に葬儀会社の職員さんから、独自のアンケート調査結果について紹介があり「僧侶さんにも聞いてもらってよかったと思った経験がありますか」という設問には七十六名中七名しか〇をつけなかったものの、「これからも僧侶さんは必要だと思いますか」という設問には七十六名全員が「必要である」と回答したことを紹介され、「僧侶さんは必要とされているし、頼りにされています。大事なご家族を亡くされてショックと混乱の中にいらっしゃる遺族に対して寄り添うような心遣いと配慮、それが何より大事だと思います」と所感を述べられた。

『全戦没者を悼み平和を願うつどい2023』開催

テーマ 「テロ」と「ものが 言えない時代」

～再び戦争の道を歩まないために～

講師 中島岳志さん

（政治学者 東京工業大学リベラルアーツ
研究教育院副院長）

演題 「日本政治はどこへ向かっているのか」

下記 URL にて、当日の動画を配信しております。
9月29日（金）まで視聴可能です。

<https://youtu.be/fbF2vxEDksA>



◆御同朋の社会をめざす運動のコーナー

全戦没者を悼み平和を願うつどい2023に参加して

八月三日の『全戦没者を悼み平和を願うつどい2023』において、近代政治思想史研究者の中島岳志さん（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院副院長）の講演がありました。内容は時宜を得たものであり、参加された方も口々に「いいお話を聞けた」と好反応を示しておられました。

中島さんは講演の冒頭で、政治はお金と価値観を扱っていると示されました。そして現在の日本は、お金の問題についてはリスクの個人化（小さな政府、自己責任型）に進んでおり、価値観の問題についてはパターナル（父権的、強い権力を持っている者が人の自由に介入してゆく考え方）の方向にあると分析されました。

この状態が続くとどうなるのか。格差が出てきます。預貯金ゼロ世帯が増えてゆき貧困問題が顕著化し、人々に生きづらさを生じさせます。この生きづらさを原因として秋葉原事件（二〇〇八年に起こった無差別殺傷事件）、相模原障害者施設殺傷事件（二〇一六年に起こった殺傷するターゲットを絞った事件）、安倍元首相銃殺事件（二〇二二年に起こった特定の政治家をターゲットにした殺害事件）が起こっています。これは戦前の日本と似た状況になってきているのではないかと、中島さんは仰います。安倍元首相を殺害した山上徹也被告は、統一教会へ母親が多額の献金をしたために進学を断念せざるを得なかった事に恨みを募らせ、事件を起こしたと供述しています。しかし、進学断念をして直ちに事件を起こしたわけではありません。そこから二十年間、ファイナンシャルプランナーの資格を取ったりして何度も人生を

立て直そうとしていました。しかし、なかなか立ち直れないまま四十代を迎え、なぜ自分がこんなに生きづらいのかを、今の自分から過去に遡って考えた結果、あの進学断念が原因だったのだという結論に至り、凶行に走ったのです。統一教会の問題は勿論ありますが、山上被告にとつてより大きかったのは、生きづらさの問題であったと言えます。この生きづらさから生まれるテロというのは、戦前の安田善次郎暗殺事件から始まるテロと共通しているとして、中島さんは再びテロの連鎖が起きてしまうことを危惧されているのです。

テロの連鎖が起こると日本はどうなるのか。戦前の日本ではテロが続発した後、治安維持法が制定され言論の自由が無くなってゆきました。これは政府だけが言論の自由を奪ったものではありません。私たちは市民の側も「テロ対策として仕方ない」「しっかり取り締まってほしい」と自主規制や付度をはじめ、「ものが言えない時代」が始まるのです。皆が何も言わなくなった時、権力は最大化します。今の日本は同じ轍を踏まないと言えるでしょうか。中島さんが「今、選挙演説を野次ると職務質問を受けるでしょう。今年四月の岸田首相襲撃事件後、警視庁が職務質問の強化を指示しているからです。しかし、それを問題視する声は上がっていません」と仰った時は、何故だか背筋が寒くなる思いがしました。

講演後の閉会挨拶で、城野至界さん（「御同朋の社会をめざす運動」高岡教区委員会副委員長）が「いいお話を聞けたで終わらせてはいけません。いい話はそのうち消えていってしまう。今日聞かれた話をお家の方や周囲の方とも共有してほしい」と仰いました。

【ヤスクニ専門委員会委員 向田永朗】

◇これからの日程（8/14～9/14）◇

8月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座 ※14-17日 教務所夏季休業	
18	職員会	
21	得度講習会（22 福光 教堂）	
22		ブロック講社研修会
23	得度考査（福光教堂）	（23 石川）
24	宗務懇話会(web)	
25		いろは塾
26		仏壮育成研修会
27		仏青ブロック研修会 （福井）
28	僧侶研修会（スタッフ研 修会）	
29		仏婦・寺女合同実践運動 研修会
30		連区布教団研修（福井） ビハトラ研修会 少年連盟役員会
31		教学研修室
9月		
1		ビハトラサロン
8	僧侶研修会（第1回）	
9	僧侶研修会（第2回）	
12		教誨 150 周年記念大会 （京都）
14	常例法座	

ラジオ放送（西本願寺の時間）

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

●9月10日（日）

未 定

（富山教区）

●9月24日（日）

未 定

（富山教区）

※西本願寺が主催し「北日本放送（KNB）」にて放送してまいりました毎週土曜日午前5時35分からの「西本願寺の時間」は、2022年9月末をもって放送終了となりました。

また「高岡教区及び富山教区が主催し「北日本放送（KNB）」にて放送しております毎週日曜日午前6時からの「西本願寺の時間」は、今後も放送いたします。

西本願寺では「動画配信サイトを設置し法話等を配信しております。ご視聴ください。」

<https://broadcast.hongwanji.or.jp/>

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（170袋）10,000円

・1組（10袋）600円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）

Tel. (050) 5587-7708(代表)

Fax. (0766) 21-5152

【西本願寺高岡会館9月の常例法座】

ご講師：丸山文雄 師

（新潟教区巻組萬榮寺）

ご講題：『仏の慈悲とは』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。